

医師と臨床検査技師との役割分担

(採血の例)

採血の結果により治療が必要な患者

約600床の病院
地域の中核医療機関

臨床検査技師

早朝に採血実施

採血結果

医師

採血の指示
外来診療前に入院患者の採血結果を確認
抗がん剤治療や輸血の実施

導入にあたっては、血液内科は採血患者が多く、そのほとんどが採血結果により日々の治療方針を決定するが、担当医師が外来診療を開始してしまうと入院患者の輸血や治療開始時間が遅れてしまうという背景があり、早朝の臨床検査技師による採血が始まった。現在採血の多い病棟から技師の業務拡大の希望が出ており、現状を評価後、臨床検査部との検討を行う予定である。

院内リーフレット

臨床検査室①

検査相談室のご案内



(医)白十字会 佐世保中央病院

◆ 検査相談室の開設にあたって

私たち臨床検査室スタッフが外来採血を担当するようになって、早や4年が経とうとしています。それまでは、看護師さんが採血した検体を閉ざされた部屋で検査し、患者様の顔が分からないまま仕事していたのが現状でした。採血業務を担当するようになって、最初の頃は、慣れないこともあり、患者様へ不安を与えてしまったこともございましたが、最近では、そういったことも少なくなり、嬉しいことに、検査についてのご相談を受けることも多くなってきました。そこで、「これはチャンスだ!」と思い、私たち臨床検査技師が何かお役に立てないか考え、検査についての相談室を立ち上げるに至ったわけでありました。近頃、エンパワメント (empowerment) という言葉が、医療の中でよく使われています。これは、患者様ご自身が病気に対処する力をつけることであります。そして、病気に対処するための行動をとることによって自己治癒力が高くなると言われています。飲んでいる薬の効能、検査データの意味を知ることによって、病気を知り、病気を理解して、病気と立ち向かう気概と自己目的が生まれてくるからです。しかし、患者様へ病院側から提供される医療情報が増えており、理解しがたい内容のものも少なくありません。そのためには、解釈して分かりやすく教えてくれる所が必要であると思われまます。当院には説明支援看護師という患者様への説明を専門に仕事をしているスタッフもおりますが、検査相談室では、定期的に行われている血液検査や尿検査を中心に、患者様が日頃抱いている疑問・お悩みに対し、私たちの専門性を活かして対応していきたいと考えています。患者様と主治医が、円滑にコミュニケーションをもてるよう、また患者様が医療を信頼し質の高い医療を受けて頂けるよう、今後も患者様のより近いところで、サポートさせて頂きます。右記に詳細を示しておりますが、ご遠慮なくご相談ください。

◆ 相談内容について

◎ 検査項目の意味について

受けられた血液検査、尿検査の内容、意味についてご説明いたします。また、採血コーナーにて行っている糖負荷試験については、待ち時間が2時間ありますので、検査の意味について詳しくご説明いたしております。

◎ 検査結果の見方や考え方について

ご自身の病気と上手く付き合っていくためには、検査の意味や考え方について理解することが重要です。“どうしてこの病気にこの検査が必要なのか”分からない場合は、ご相談ください。

◎ 検査項目の基準値 (正常値) について

基準値 (正常値) の考え方は、難しく、範囲から外れた方に必ず異常があるわけではありません。納得いかない検査結果の場合は、ご相談ください。

◎ 検査に関する様々な疑問について

検査については、採血・採尿から結果報告にいたるまで、目に見えない所で行われており、疑問に感じる部分が多いと思われるます。些細な事でもよろしいですので、お気軽にご相談ください。

◎ 検査に掛かる費用について

医療情報課の担当スタッフを交えて、検査に掛かる費用についてご説明いたします。

私達、臨床検査室スタッフは、患者様が安心して療養できるよう、検査に関する疑問について、共に考え解決に向けお手伝いします。



◆ よくある相談内容について

- * 主治医から検査結果を頂いたが、意味がよく理解できないので、詳しく教えて欲しい。
- * 主治医から糖尿病予備軍と言われたが、どれくらいの状態なのか知りたい。
- * 主治医に電子カルテで結果説明をしてもらうが、いつも異常マークが付く検査項目がある。毎回気になるので、教えて欲しい。
- * リウマチや膠原病の検査の検査項目数が多くまた難しい。意味がよく理解できないので詳しく教えて欲しい。



相談室での検査相談の様子

何かございましたら、遠慮なく
採血室コーナーへ、お申し出ください。



◆ 相談室の受付時間

月曜～金曜日（平日）

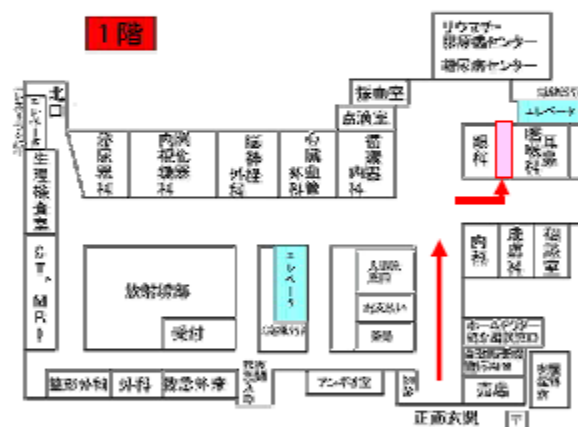
午後 13:00～16:00

※ 午前中でも、対応できる場合がございます。

◆ 相談室の場所案内

病気の相談室

※ 下記の院内1階の眼科と耳鼻咽喉科の間になります。
相談を希望される方は、採血コーナーへお越し下さい。



ご不明な点がございましたら、臨床検査室へ
お問い合わせ下さい。



☎: 33-7151（代表）内線 1181・1182

医師と臨床工学技師との役割分担

(人工呼吸器の例)

病院でNPPVを導入し、在宅復帰する場合

約600床の病院
地域の中核医療機関

臨床工学技士

呼吸器の安全管理、医師の指示による設定の入力
在宅での機器の使用に関する注意事項等を患者・家族に説明

呼吸器設定等の指示

医師

適切な呼吸器設定の決定

機器の使用に関する説明

患者・家族

近年、非侵襲的陽圧人工呼吸器の操作性の向上により、自宅で夜間等に人工呼吸器を使用する例が増加している。病棟での導入においては、臨床工学技士による定期的な機器の確認により、事故の防止や、より適切な装着が可能となる。

在宅で家族が使用する際には、機器の使用方法等の説明を行うことで、家族が安心して在宅での人工呼吸器を使用することを援助することが可能である。

NPPV（非侵襲的間歇陽圧人工呼吸） 鼻マスク等を用い、気管内相関を行わずに人工呼吸管理を行える。高炭酸ガス血症を伴う呼吸不全に適用となる。

S病院における臨床工学技士の役割

～人工呼吸器の管理の例～

< S病院の概略 >

- ・病床数: 500床程度
- ・救命救急センター、がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター
- ・外来患者数 約2,500人/日
- ・救急車受入れ台数: 9,773件/年
- ・病棟における人工呼吸器使用台数(集中治療領域7台、その他の病床7床)

平成21年10月23日現在

< 背景 >

- ・急性期医療を担う医療機関であり、集中治療領域以外の一般病棟においても呼吸器を使用している症例が多い。
- ・在宅復帰を見据えて、病棟において、間歇的なNPPVの装着を導入する症例が多い。

< 臨床工学技士の役割 >

- ・人員配置: 28名(腎センター所属14名、CE室所属14名: 機器管理(呼吸器を含む)5名、人工心肺3名、カテ室1名、OR1名、準夜勤務1名)
- ・人工呼吸器装着を行っている全ての患者に対し、臨床工学技士が1日3回ラウンドし、機器の設定の確認や安全管理を行う。2週間に1回、回路交換を行う。
- ・呼吸ケアチームのラウンドに同行
- ・夜間のみ装着する患者の装着直後の点検(準夜勤務)
- ・HOT、NPPV患者・家族への機器使用に関する説明
- ・病棟における人工呼吸器使用に関して、病棟研修会の開催

医療関係職と事務職員等の役割分担について
(間接的に勤務医負担軽減に資する例)